



「板橋区教育ビジョン2025」及び「いたばし学び支援プラン2025」を踏まえ、本校で学ぶ生徒、保護者、地域の実態に応じて、願い・期待に応える学校を目指す。

1 本校の教育目標

- 校訓 ・自立 ・貢献 ・感動
- 教育目標 ・知る ・考える ・行動する (令和3年度改訂)

本校では、生徒が進むべき方向を「自立・貢献・感動」としている。

この目標を実現するためには、「知る」「考える」「行動する」というステップが重要となる。

一人一人の個性や可能性を伸ばし、世の中に貢献できる人になるために、「知る」ことを増やし続けていく必要がある。多くのことを「知る」ことで、向上心をもつことができる。

そして、課題に対して、解決するチャンスと捉え、自ら考え、その考えを伝え、他者の考えを聴き、判断、他者とともに、目標を達成するために、失敗しても恐れず何度でも粘り強く行動する。互いの良さを認め合い、互いに補いながら、一人ではできないことをやり遂げることができる。

学校での様々な活動、またこれからの人生においても、「知る」「考える」「行動する」というステップを意識して、常に目標をもち、自他を認め合い、主体的に学び続け、粘り強く行動することのできる自立した、社会に貢献できる生徒の育成を目指したい。

2 目指す学校 ～ウェルビーイング向上～

(1) 目指す学校像

- ①生命や安全が確保され、安心できる学校
- ②生徒一人一人の個性やよさ、可能性を引き出し、伸ばし、自己実現できる学校
- ③一人一台端末などを活用し、基礎基本の定着を図れる学校
- ④知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実現する学校
- ⑤コミュニティ・スクールとして、「チーム上三」で、保護者・地域と連携・協働し、信頼され、誇りに思われる学校

(2) 目指す生徒像

- ①心身ともに健康で、自他を尊重し、認め合い、励まし合い、支え合える、思いやりのある生徒
- ②目標をもち、失敗を恐れず挑戦する生徒
- ③自他の個性やよさを見付け、伸ばすことができる生徒
- ④自己決定のできる生徒
- ⑤分からないことやできないことにも諦めずに根気強く取り組み、自己調整力を身に付けた生徒
- ⑥自ら課題を見付け、自ら考え、伝え、判断し、主体的に粘り強く行動する「自己指導能力のある」生徒

(3) 目指す教師像

- ①課題の本質を見抜く力と危機管理意識の高い教師
- 学校の抱える問題を解決するために、課題の明確化を図り、課題の本質を見抜く
- 危機管理の優先順位が一番は生命に関わること。発生したときに管理職への報告、連絡、相談の徹

底、危機管理は初期対応がすべてであることを意識する。

- ②一人一人の個性やよさや可能性を引き出し、伸ばすことのできる教師
- ③生徒の主体的な学びに寄り添い、生徒の声を受容・傾聴し、的確な支援ができる伴奏者として役割を果たす教師
- ④プロアクティブな生徒指導のできる教師
- ⑤教員としての基礎基本を身に付けた教師（教職に必要な素養）
- ⑥個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、主体的・対話的な深い学びを実現できるよう授業革新にせまる教師
- ⑦チーム上三の一員として、生徒・保護者・地域とともに、学校を運営する教師

(4) 目指す地域、保護者との関係

- ①地域、保護者に開かれた学校
- ②地域、保護者に支えられる学校
- ③地域、保護者を支える学校

＊コミュニティ・スクールとして、地域の考えを取り入れた学校運営

3 中間的目標と方策

(1) 互いに尊重し、有用感を伴う自己肯定感を高め、豊かな心を育成

- ①自他の個性や違いを尊重し、思いやりのある健全な心を育成するとともに、自他の生命を大切にす
る指導の徹底
- ②生徒一人一人への共感的な理解を深めるとともに、生徒が互いに尊重し、一人一人の個性やよさを
伸ばし、可能性引き出し、安心して安全に活躍でき、自己実現できるように支援
- ③目標をもたせ、失敗を恐れずに粘り強くチャレンジする精神の育成
- ④自分の課題を見付け、考え、行動し、粘り強く努力する指導
- ⑤生徒を主体とした様々な体験ができる場を設定し、自治力の育成とともに、自己有用感を伴う、自
己肯定の醸成（自己指導能力の育成）
- ⑥プロアクティブな生徒指導の充実を図り、特別な配慮の必要な生徒や不登校生徒、いじめ等に対
し、未然防止を図る。また、早期発見・早期対応の課題早期発見対応を図り、組織的なチーム支
援・対応をするとともに、関係機関と連携し、支援体制の充実

(2) 確かな学力の定着、向上

- ①「板橋区授業スタンダード」に基づき、「個性最適な学び」及び「協働的な学び」のそれぞれの学び
を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業革新
- ②G I G Aスクール構想による一人一台端末等の I C T機器を学習のツールとして積極的に活用し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業革新に生かすとともに、資質・能力の育成や学習
活動の充実
- ③S T E A M教育等の教科等横断的な学習や探究的な学習等の推進により資質・能力の育成
- ④目標をもち挑戦し、諸活動において課題を見付け、考え、協働して取り組み、粘り強く行動する課
題解決力や自己指導能力の育成

(3) 学校・家庭・地域の連携・協働し、共に歩む学校づくりの推進

- ①地域社会の一員として、自己の役割や責任を意識させるとともに、ボランティア活動等に積極的に

参加、貢献する態度の育成

- ②コミュニティ・スクールとして、生徒の成長の支援を家庭や地域、学校支援地域本部、親鳩会等と連携・協働
- ③学校地域支援本部による英語検定と漢字検定の監督や事務処理の支援
- ④地域人材の活用
 - ・地域の教育力を積極的に活用
 - ・「地域は教材」「地域は先生」「地域は家族」連携・協働
- ⑤保護者との連携
 - ・三者面談等での情報共有

4 今年度の重点目標と方策

(1) 豊かな心、共感的な人間関係の育成 (生命尊重・人権尊重教育の充実、思いやりと感謝の気持ちの育成)

- ①すべての教育活動において、自他の個性、違いを認め合い、尊重し、自他の生命を大切にする指導の徹底
- ②一人一人のよさや可能性を引き出し、伸ばす指導
一人一役でより具体的に褒める
- ③「いじめはいかなる理由があってもいけない」100%の回答
 - ・特別の教科 道徳学活等での年3回以上のいじめ防止に関する授業、朝礼等の講話、生徒会を中心とした取組等で指導内容の充実
 - ・生徒会による取組、日常の観察・声掛け・励まし・対話、いじめアンケートの実施及び分析により、生徒の実態を把握し、指導等に活用（未然防止、早期発見、情報共有、早期対応、再発防止の推進）
 - ・予兆行動や問題行動を見逃さずに諸課題を発見し、対応
- ④生命の安全教育
 - ・性暴力に関わる正しい知識、未然防止ための考え方・態度、対応力を身に付けさせる指導（適切な援助、希求行動）
 - 7年生「自他の尊重」「自分と相手の心・身体の尊重」（学級活動・保健体育科）
 - ・自分と相手の距離感
 - ・相手の気持ちを尊重した意思決定（同意の重要性）（SOS出し方教育：保健体育）
 - ★嫌なことは嫌と言う、相手が嫌と言うことはしない文部科学省 動画20分使用
 - 8年生「デートDV」（学級活動・保健体育科）
 - ・非対等な人間関係
 - ・被害に遭わない方法、力の不均衡
 - ・性暴力の加害者、被害者にならない★性暴力やデートDVの実態を理解する ★被害に遭ったときの対応を理解する
<https://sites.google.com/ita.ed.jp/inochi/>
 - 9年生「性暴力の実態」（学級活動・保健体育科）
 - ・接触型の暴力と非接触型の暴力
 - ・非対等な人間関係、性暴力被害時に被害を拡大させないために取るべき対処策
 - ・性暴力の加害者、被害者にならない★性暴力の根底にある誤った認識を理解する

⑤人権尊重教育の充実（性の多様性を含めて人権感覚を磨く指導）

- ・LGBTQへの正しい理解（生徒及び教職員）
- ・セーフティ教室を通し、SNS東京ルール及び板橋SNSルール等を基に、家庭と連携しながら情報モラルの育成

⑥親和的な学級づくり

- ・Hyper-QUの結果の分析、支援を必要とする生徒について情報共有
学級・学年経営の生かす
- ・1、2学期に各1回以上、ソーシャルスキルトレーニングを実施し、友人関係の醸成

(2) 確かな学力の定着・向上（*年3回アンケートを実施し、授業革新）

→ 基礎的な知識や技能の習得、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力の育成
主体的に学びに向かう態度の育成

①板橋区授業スタンダードに基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業革新

- ・「わかる・できる・楽しい」授業づくり
- ・Outputを含めた学習目標、**見通し（授業の流れ）**の提示、視点を示しての**振り返り**の実施
- ・小单元ごとに100字程度の文章で書くことでの振り返り
- ・振り返りを活用し、自らの課題を見付け、主体的に学習を調整できるようになる指導（**自己調整力の育成**）

特に、分かったことと分からなかったこと、分かるために工夫したこと等学習内容だけでなく、理解に至ったプロセスを自分で表現し、友達に表出し、共有し、調整力育成を意識した振り返り

振り返りで引き出したい姿、言葉、記述を設定し、そこから逆算して授業のめあてや中心となる発問を立てる授業づくり

- ・生徒と保護者を啓発し、**家庭での自発的な学習の習慣化（最低週10時間以上）**

「M34学びのすすめ～家庭学習の手引き～」に沿った指導の充実

一人一台端末の活用

- ・主体的、対話的で深い学びの実現

興味関心のもてる授業、学習課題に迫る明確な発問や指示、気付きのある授業、活動や発表が多い授業、課題解決的な学習、考えをまとめて書く活動（200字程度）
個→グループ→個、と考えを深める授業

個別最適な学び、協働的な学びのある授業、探究的な学び

- ・「分からないところ」は分かるまで、「できないところ」はできるまで諦めさせることなく支援
- ・**小学校での学びとの連携**
- ・学力検査等の到達目標明示（自己申告等）
- ・評価・評定について、事前に生徒・保護者への十分な説明
評価材料の蓄積と評価方法の工夫・改善を図り、適正な評価を実施

②読み解く力の育成 = 「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の育成

- ・教科書等の文章や図表等から読み取ったこと（認識 **Input**）を基にして、分かったこと、考えたこと（思考 **Think**）を相手に伝える力（表現 **Output**）
- ・教科書で学ばせる視点を明示し、生徒が読むことで理解できるものは、生徒に読み取らせて、文字言語化（同義文判定、推論、イメージ、具体例同定の活用）

- ・本時のねらいを達成するために、基礎的読解力の活用を1つ以上は意識して導入
- ・すべての生徒が、所属学年各教科の教科書の文章を正しく読めるようにするため、リーディング・スキル・テスト（RST）のアセスメントにより生徒一人一人のリーディング・スキル（RS）についての実態把握

③一人一台端末を文房具としての活用（個別最適な学び、協働的な学び）

- ・ICT推進リーダーを中心に一人一台端末の活用方法について研修
- ・資料の共有、学習記録。意見（考え）の交流及び比較、課題提出、発表、情報収集、共同編集や作成等に活用

④総合的な学習の時間の充実（探究的な学習） *調べ学習にしない

- ・教科等の横断的な視点による課題解決的な学習や探究的な学習の充実
板橋のiカリキュラム「SDGs・環境・キャリア・郷土愛」等をテーマに
課題の設定 → 情報収集 → 整理・分析 → **できることの実行** → **まとめ・発表**
思考力・判断力・表現力等とともに、問題発見・課題解決能力等の育成

- ・上三スタンダードの確立し、自分たちにできることを考え実践できる力の育成とともに、9年間で「これからの板橋を語る」郷土愛の育成

7. 8年生は、「これからの板橋」に関して様々なアプローチ方法や追及の仕方を学ぶ川越校外学習や鎌倉校外学習、平和学習や環境教育を通して、実際に訪れた町の学びから、板橋区の良い点、改善点などを考える。

9年生は、京都・奈良修学旅行を通して、実際に訪れた町の学びから板橋区の良い点、改善点などを考えるとともに、3年間のSDGs・環境・キャリア・郷土愛をテーマに行った学びを生かして、「これからの板橋」に関する個人のテーマを追求する。

⑤中央図書館、学校図書館を活用した読書習慣化

- ・朝10分間の読書活動を通して、豊かな感性と考える力、読み解く力の向上
- ・朝読書や学習活動における学校連携用電子図書館、中央図書館、学校図書館の活用
- ・中央図書館への寄り道
(学校としては保護者と確認した上で18時まで許可。それ以降の時間帯については、保護者と確認)

⑥キャリア教育の充実

- ・キャリア・パスポート（上三バージョン）の活用
- ・計画に基づいたキャリア教育の実践

⑦授業観察及び相互授業見学

- ・端末の活用
- ・生徒の思考を促がす課題解決型の授業展開
- ・3人組などグループを活用し協働的・対話的な授業展開を意識した授業実践

⑧週案

- ・「Outputを含めた学習目標」、生徒の反応、安全面指導等を記入
- ・週案簿を活用し、RPDCAを意識することで、意図的・計画的に教育活動を実施

- ・教育課程の管理のため、**毎週金曜日に必ず**提出
- ・実験や実技指導においては、安全指導を明記

⑨学力向上専門員を活用

- ・放課後及び長期休業中などに計画的に学習教室を実施し、学力向上
- ・数学や英語の授業、「若鳩ルーム」での指導の充実

⑩各種検定、コンクール等を活用し、一人一人の学習意欲喚起

- ・英語検定、漢字検定などの検定へのチャレンジ
- ・各種コンクール等への応募

(3) 特別活動や体験的な学習(奉仕活動等)の充実、自己指導能力の育成

連帯感、責任感の育成、他者との共生

①学校行事や特別活動(生徒会活動、学級活動等)等の活動において、**生徒の主体的な企画や運営**

- ・主体的に適切な解決方法を考えて実行する(自ら課題を見出し、考え、話し合い、行動して課題解決する)、**自己決定や自己存在感を高める場の設定(意思決定、合意形成、自治的な活動)**、様々な体験の場の設定
- ・成就感・達成感を味わわせ、**自己有用感を伴う自己肯定感の醸成**を図る指導

②一人一役、一人一作品

③1組の日常の活動や学校行事、部活動等での交流及び共同学習を推進

- ・通常の学級の教員が1組の授業を担当

④特別支援教室巡回指導教員や生徒支援委員会、特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員、心理士の活用を図り、特別な配慮を要する生徒の障害の特性を本人、全校生徒、教職員が理解し、計画的に支援

⑤オリンピック。パラリンピック教育

- ・障がい者理解を推進し、共生、共助社会の実現のできる資質を育成

⑥部活動における指導の充実

- ・勝利主義ではなく、多様な力を身に付けさせる指導
- ・学校教育の重要な位置づけとして、生徒理解の機会でもあり、生徒にとって異年齢集団における交流の場でもあるという教育的意義を踏まえ、板橋区の活動ガイドラインに基づいた適切な運営
- ・外部指導補助員、部活動指導員を積極的に導入し、全教員が部活動顧問となり、指導の工夫

(4) 健やかな体の育成

①一校一取組

- ・前年度体力テストの結果に基づいた保健体育科授業での補強運動を通して、基礎体力の向上
- ・「する・見る・支える・知る」の見方・考え方を指導

②食育の推進

- ・家庭科や保健体育科等の教科学習を通して、食生活や睡眠時間等の生活習慣指導の充実
- ・毎日の「食育だより」を活用した(給食中電子黒板、昼の放送)給食での食育の推進による健康教育の充実

(5) 生活指導の充実（自己指導能力の育成）

①生徒指導の4視点

- 自己存在感の感受 = 「自分も一人の人間として大切にされている」、自己有用感を伴う自己肯定感を育成
- ← 「指導の個別化」「学習の個別化」により個別最適な学びのある授業
- 共感的な人間関係の育成 = 認め合い、励まし合い、支え合える学習集団づくり
- 自他の個性を尊重し、相手の立場に立って、考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係づくり
- 自己決定の場の提供 = 授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートするなど、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験
- ← 意見発表の場、生徒間の対話や議論の機会の設定、生徒の学びのファシリテーターとしての役割を果たす
- 安全安心な風土の醸成 = 互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れるような風土を教職の支援の下、生徒自らが作り上げる
- ← 学級は生徒の「心の居場所」に
- を常に意識し、自己有用感を伴う自己肯定感の育み、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定（適切な解決方法を考え）して、他者を尊重しながら、自らの行動を決断して実行する

「自己指導能力」の育成

②あいさつ指導

- ・上三中の伝統である、立ち止まって大きな声でのあいさつ指導

③板橋区立学校校則の見直しに関するガイドラインに基づき、年一回「校則を考える会」を立ち上げ、学級活動、生徒会活動を通して、生徒が主体的に校則の見直しに参画し、身近な課題に対し、自ら判断し行動できる力を育成する。

④自己有用感を伴う自己肯定感を高める指導を実践

- ・努力や達成したことなど具体的な行動を褒める、良いところを具体的に褒める
- ・行為を価値つけて子どもを褒める 自分の行動の価値を教えることで前向きにがんばろうとする意欲向上につながる

⑤組織対応の徹底

- ・報告、連絡、相談の徹底

⑥問題行動の未然防止及び問題行動発生時の対応の明確化（短期的対応、中期的対応、長期的対応）

⑦家庭との連携、情報共有

⑧関係機関（SC、SSW、子ども家庭支援センター、主任児童委員等）との連携

- ・週一回の生活指導部会や特別推進支援委員会中心に関係機関との連携、組織的に未然防止及び問題解決
- ・いじめ対策委員会（管理職、生活指導主任、教務主任、学習進路主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、学年主任(学級担任)で組織。SCとも連携)
- ・いじめ重大事態等の対応

⑨危機回避能力・危機予知能力を育成

- ・月一回の安全教育、避難訓練、不審者対応訓練等の充実
- ・事故防止、危機管理意識
- ・食物アレルギーへの確実な対応（年一回、校長、養護教諭、栄養士、学年主任（学級担任）、保

護者、生徒との面談)

(6) 不登校対応

- ①課題予防的生徒指導：課題早期発見対応（未然防止）
 - ・ 2日欠席したらその日のうちに家庭訪問（電話）等での丁寧な対応
- ②情報共有
 - ・ 家庭との連絡、相談
 - ・ 面談の充実
- ③組織的な対応
 - ・ 担任だけでなく、学年として早期対応（担任+1名）
 - ・ 生徒支援委員会での対応確認
 - ・ 関係機関（SC、SSW、子ども家庭総合支援センター、主任児童委員、フレンド等）との連携
- ④相談環境の推進
 - ・ 心身のバランスのための教育相談やふれあい相談の充実、相談環境づくり
 - ・ 相談しやすい環境づくり
 - ・ 区、都のSCの活用
- ⑤誰一人取り残さない居場所作り
 - ・ 「若鳩ルーム」の活用
オンライン授業、自主学习、読書等
- ⑦オンライン授業、クラスルームを活用したやり取り

(7) M34学びのエリアと小中一貫教育

令和5年度の継続

総合的な学習の時間、生活科、教科での系統性、連続性を意識

- ①総合的な学習での探究的な学習において、令和5年度の計画に基づき手法や指導内容面で小中連携
- ②一教科一取組の継続
- ③9年間の家庭学習の手引きに沿った指導
- ④小中一貫コーディネーターを中心に、年3回の研修会及び運営委員会を開催
- ⑤小中一貫教育で育てたい資質・能力として、生涯にわたって学び変え続ける自己学習力や自己決断力を育むため「読み解く力」を育成
- ⑥「板橋区授業スタンダード」の継続及び板橋のカリキュラムの実施や9年間の年間指導計画（単元配列表）の作成、小・中学校相互の乗り入れ指導を推進
- ⑦小学生の中学校体験入学の実施や小・中学校合同での行事の実施
- ⑧エリア内にある区立中央図書館を核として「図書館使った調べる学習コンクール」等の取組を共通して実践

(8) コミュニティ・スクール（iCS）、学校支援地域本部

- ①学校強みと弱みを保護者・地域にオープンにし、学校・家庭・地域（・生徒）がチームとなった体制づくりを推進し、学校教育への参画、支援
- ②年5回の委員会を開催し、積極的な学校実現を知らせ、学校運営のアドバイスを受け、学校経営に生かす

(9) 学校運営

①Scrap & Build

- ・ 伝統を尊重するが、根拠に基づいて継承
- ・ 良い伝統の継承及び、新しく良いことは積極的に取り入れて、双方の融合

②R P D C Aサイクル、O O D Aループ（年3回の授業アンケート、学校評価）により早期改善

③報告・連絡・相談を徹底

④学校経営方針に基づいて、主幹教諭、主任教諭のリーダーシップにより、学年や分掌組織のチームワークを大切にし、教職員が一体となって目標に向かい、課題を共有し、個々の個性を發揮できるように、学校全体で組織的・機能的な学校運営を行うとともに、O J Tを通じた組織的な人材育成

⑤職務上の課題に対して一人で対応せず、学年・教科を問わず全教職員が当事者意識。

⑥経営参画意識をもち、短期間のR P D C Aサイクルによって、校務を正確かつ的確に処理

⑦職員室の机上整理を常に心がけ、服務事故を防止する。

⑧**服務事故**は信用失墜として学校・教育活動全体におよび、個人の受ける処分では責任の取り切れるものではない。教育公務員としての自覚をもち、服務の厳正に努め、信頼される教職員を目指す。

⑨**保護者負担軽減と私費会計の適正な編成・執行**

⑩事案決定システム（文書決済）は次のとおり

A： 学校から発信するおたより等

担当者 → 担当主任・主幹 → 副校長 → 校長（→ 副校長）→ 担当者

B： 提案する議案

担当者 → 担当主任・主幹 → 副校長・校長 → 運営委員会 → 職員会議 → 担当者

(10) 働き方改革

①勤務時間に対する意識

- ・ 各自で定時退庁日を月2回以上設定 月45時間を超えない
- ・ 出張先での用務終了後、学校に戻ると勤務時間外になる場合は、直帰を基本
- ・ 夏季休業中の完全閉庁5日間設定

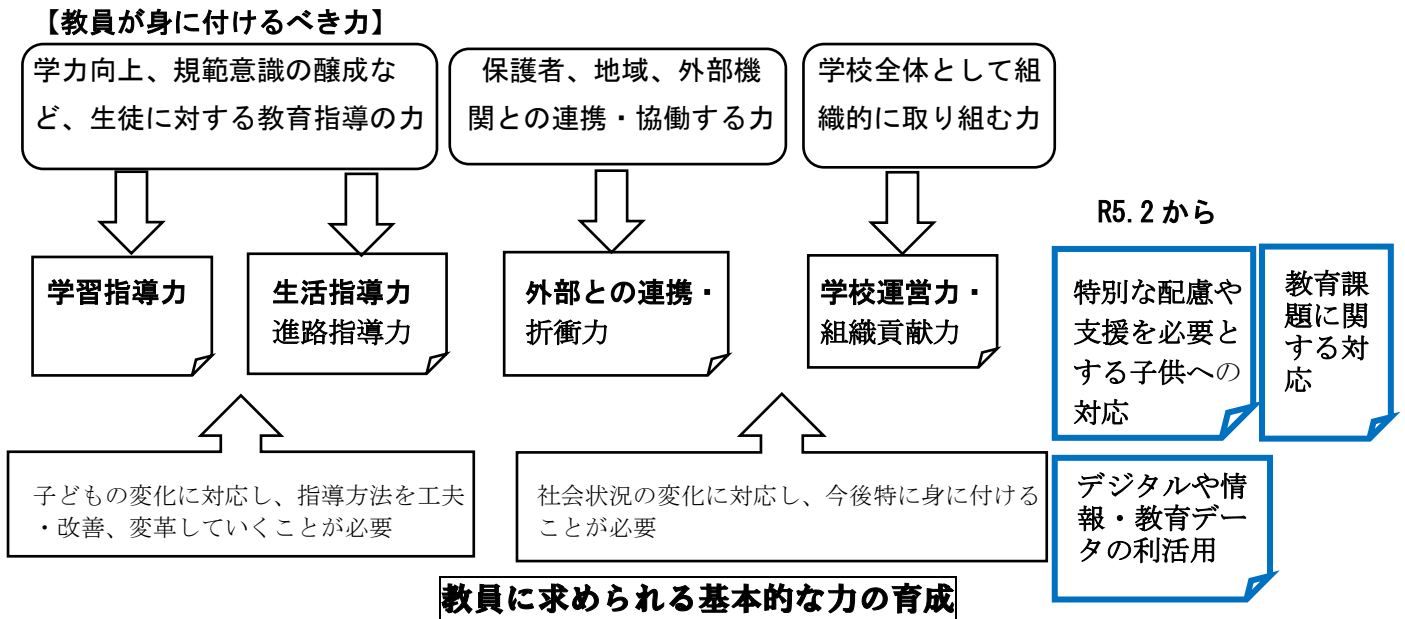
②業務改善

- ・ 通知表における総合的な学習の時間の所見及び特別の教科道徳の評価記述は3学期のみ
- ・ 卒業文集は発行なし
- ・ 漢字検定、英語検定実施における地域支援
- ・ I C Tの活用（採点ナビの積極的な活用、家庭との連絡のデジタル化など）
- ・ 定期考査最終日の部活動なし
- ・ 生徒への配付物の教職員分はC4th 掲示板に掲載
- ・ 保護者会への出欠等はFormsを使用
- ・ 保護者への配付物は、メール配信またはホームページ掲載

③会議の効率化

- ・ グーグルを使用した連絡とし、原則朝の打ち合わせをしない
- ・ ペーパーレス

教職に必要な素養



○学習指導力 ア「学習意欲が高まる授業」「気づき、考え、判断、表現する授業」「生徒一人一人が分かったと実感できる授業」を目指す

・板橋区授業スタンダードの確実な実施

・一人一台端末、ICTの活用

・読み解く力の育成

・日々の授業革新

・指導内容に関する「教材研究」の充実

・基本的な指導技術の習得（ねらい、発音、板書、ノート、机間指導、指示、話し方、目線、称賛 等）

イ「評価・評定」のあり方の理解と充実

・指導と評価の一体化

ウ 相互授業見学でき、互いの高め合い

○生徒指導力・進路指導力

ア 個の生活指導力の向上を図る。

・安全・健康優先の意識

・生徒の実態把握力

・一人一人の良さや可能性を伸ばす力

・可能性や活躍の場を引き出す集団をつくる力

・組織対応力

・情報共有力

・個の悩みや思いを共感的に受け止め援助する力

・緊急対応、短期的な対応、中長期的対応の視点をもつ力

イ 指導方法・手順を知るために若手教員が先輩教員の指導に同席するなど「場の設定」を積極的に行う。

ウ 組織対応の際の役割分担の原則を常に確認

エ 体罰、不適切な指導・言動等なし 服務事故ゼロ

○外部との連携・折衝力

- ア 保護者や外部の方等との電話対応を適切に行う。
対面対応（面談や突然の来校等）においては、意向を十分に聞き、方向を具体的に示す。
具体的な方向が見えない場合は、時間をもらい管理職や組織で検討して回答する。
- イ 関係機関とは何かを具体的に把握する。
（SC、SSW、警察、子ども家庭支援センター、児童相談所、区教委、スクールロイヤー、iCS、民生児童委員、青少年委員等）
- ウ PTA行事、地域行事等への積極的に参加する。

○学校運営力・組織貢献力

- ア 「報告・連絡・相談」（過去・現在・未来）を徹底する。（5W1H）
- イ 組織の中で自分の立場の理解とそれに基づく動く。
- ウ 教諭→主任教諭→主幹教諭・指導教諭→管理職のラインを生かし、常に組織を生かした対応を心がける
- エ 各教職員が役割を理解し、教科部会、校務分掌等の活性化を図る。

◎特別な配慮や支援を必要とする子供への対応

◎デジタルや情報・教育データの利活用

◎教育課題に関する対応

★教育者としての常識を身に付ける

- a 言葉遣い、身だしなみ、電話の応答、接遇等、教職員としての常識を醸成
- b 常に生徒の模範
- c 一般社会から「教職員」という見方をされることを意識し、言動について絶えず注目されているという認識をもつ
- d 服務に厳正であること。服務事故ゼロ